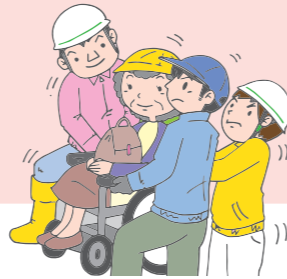


「いつものお出かけ」も命を守るヒントに

赤ちゃんや高齢者、障がい者のおられる世帯では日常的な外出にも様々な準備が必要です。普段から必要な持ち物や移動ルートを意識しておくことが災害発生時のスムーズな避難行動につながります。



必要な持ち物や移動ルートを意識して地域のお祭りへ!

ALS(筋萎縮性側索硬化症)を患う辻久めぐみさんの、水口曳山祭の見物に同行しました。



1 まずは外出に必要なものを準備
▶必要なものがどこにあるか、確認。



2 ベッドから車いすに移乗
▶家を出るまでにかかる時間・人手を把握。



3 神社に向かう
▶車いすでも問題なく通れることを確認。



4 到着!
▶ご家族とお祭りを見物しました。
▶近所の方が普段の様子を知る機会にも。



辻久めぐみさん

水口曳山祭は昔から大好きなお祭りです。主人もそれを知っているので、毎年連れ出してくれます。普段会えない知り合いとお祭りで出会うこともあり、祭り散策が一番の楽しみになっています。

家族だけでなく、ヘルパーさんに車いすに移乗させてもらうこともあります。これは有事の際に家族がいなくても車いすに乗り避難するための練習なのです。

避難に不安がある方はお気軽にご相談ください。

甲賀市では、災害時に自力で避難できない方の情報を普段から地域で共有するための名簿への登録案内を行っています。※避難行動要支援者同意者名簿といひます。

自力での避難に心配がある方は、ぜひご相談ください。

●問合せ：地域共生社会推進課 地域共生社会推進係 **Tel) 69-2155** **Fax) 63-4085**



災害に備えて、私たちが今できること



新しくなった気象情報は、私たちに「避難の合図」をより明確に教えてくれるようになります。情報の変化を正しく理解することは、避難のタイミングを判断するための第一歩です。

しかし、いざ大規模な災害が発生したとき、消防や警察などがすぐに駆けつけられるとは限りません。命をつなぐのは、あなた自身の備えと、家族や隣近所での助け合いです。私たちが今できることを考えてみませんか。

今できること①

身近な人との連絡の取り方を決めておく

災害が起きたとき、まず大切なのは自分と家族の安全です。しかし、発災時は電話が繋がりにくくなることも予想されます。いざという時に、家族や大切な人とどうやって連絡を取り合うか、あらかじめ「連絡手段」や「待ち合わせ場所」を決めておきましょう。



安否が確認できるように決め事を /

災害への備えとして、家族での決め事が大切です。例えば、安否報告をする遠方の親戚を決めておく。災害時でも、遠隔地への連絡は比較的つながりやすく、その人を介して家族の安否を確認できることがあります。また、近くの公民館など集合場所を決めておくことです。自宅近くならご近所同士での安否確認にもつながります。



防災士 竹若 茂国さん

今できること②

家の周りの危険箇所を把握しておく

住み慣れた地域も、災害時には違う表情を見せます。崖崩れや浸水の恐れがある場所を、平時のうちに再確認しておいてください。身近なリスクを正しく知ることは、安全に逃げるための第一歩です。地域の危険箇所を把握し、命を守る備えを始めましょう。



災害図上訓練(DIG)で住み慣れた地域の危険をチェック /

磯尾区で災害図上訓練(DIG)を実施しました。DIGは、付箋を使って地図上に書き込みながらゲーム感覚で地域の危険箇所を洗い出すものですが、急傾斜地や決壊の可能性のあるため池など危険箇所に共通認識が持たただけでなく、避難時に助けが必要な方がどこにいらっしゃるかも、再認識することができました。



甲南町磯尾区 奥 俊幸さん